

# 新聞「総合報道」に取材記事が掲載されました

サインディスプレイ業界の業界専門新聞「総合報道」（2021年4月5日号）に、当社のデジタルサイネージの取り組みに関する記事が掲載されました。

三種郵便物認可 2021年(令和3年)4月5日(月曜日) (2)

B & P

## デジタルサイネージ事業 東京、大阪に体感型ショールーム

「Digital Signage Solution (DSS)」を開始した。

併せて東京本社、大阪本店内に体感型ショールームをオープン。「商品棚をまわす」をテーマにした動画制作を強化し、インクジェット出力を軸にしたデジタルサイネージを中心に、広告やインテリアな

ど幅広い市場で事業を展開している。今年3月、広告を知り尽くしたインクジェット出力会社が運営するデジタルサイネージをコンセプトに、セールスプロモーション(SP)に関するノウハウを最大限に活用した新規ビジネス「Digital Signage Solution (DSS)」を開始した。併せて東京本社、大阪本店内に体感型ショールームをオープン。「商品棚をまわす」をテーマにした動画制作を強化し、インクジェット出力を軸にしたデジタルサイネージを中心に、広告やインテリアな

トが融合し、変わりつつある消費者の購買行動を意図。店舗への来店のきっかけを作る仕組みや、省人化対応と業務効率改善につなげられるなど、現場者自身が体感できるのが特長だ。さらに、美容サロンや次世代カーショールーム

向けデジタルサイネージを展開する株式会社P3と業務提携契約を3月9日に締結した。サイネージや映像コンテンツなどを活用した空間演出(スペースクリエイション)を幅広い市場に共同で展開していく考えだ。

B&Pの和田山朋弥社長は、新規ビジネスについて「紙媒体のインクジェット出力事業は成熟しているが、新たな市場を開拓できないかと以前から検討していた。また、紙媒体の出力はB&P、サイネージは別会社」と振り分けられてしまうと、顧客喪失につながる。紙媒体、サイネージともにB&Pに任せれば安心だと言われるようにしたい。新ビジネスのDSSは、これまでSP分野で培ってきたノウハウを主要顧客に提案することも、P3と業務提携を結ぶことで、同社の業務領域にも参入したいと思っている。サイネージは、IJ出力に比べると、利益水準をあまり保てないと聞く。そこでモニター本体の販売・設置はもちろんだが、コンテンツ作成・配信管理まで一括で請け負う「サブスクモデル」に近いビジネスを顧客に提供し、収益増を図っていきたい」と話す。

東京本社、大阪本店内に開設した「体感型ショールーム」は、三密を防ぐため、完全予約制。営業時間は午前9時から午後6時半。

【問い合わせ】B&P 東京本社(☎03・5408・8051)



東京本社内に開設した体感型ショールーム

当社は、加速するデジタル化の流れに適合した新たなサービスを提供するために、今期よりデジタルサイネージ事業を開始いたしました。デジタルトランスフォーメーションの一環として、インクジェットプリントによるリアルな紙媒体の広告と、デジタル技術を駆使したサイネージ、この2つを両輪に事業を拡大し、さらなる成長を目指します。

本リリースに関するお問い合わせはこちらまで  
 株式会社ビーアンドピー IR 担当 [ir\\_bp@bandp.co.jp](mailto:ir_bp@bandp.co.jp)  
 新聞「総合報道」 <https://www.sogohodo.co.jp/>